

## 教育研究業績

学部：芸術学部 学科：芸術学科

領域：芸術教養領域

氏 名	早川 知江	職 名	准教授
教育活動	2018年度 [学部] 英語 1、2、3、英語リテラシー1、大学生になる、アートプロジェクト 2、 芸術教養レビュー1、外国語活動		
学 位	博士（国際文化）（東北大学）平成 18 年		
学 歴	平成 12 年 3 月 南山大学 文学部 英語学英文学科 卒業（学士（文学）取得） 平成 12 年 4 月 東北大学 国際文化研究科 博士課程前期 2 年の課程 入学 平成 14 年 3 月 同 修了（修士（国際文化）取得） 平成 14 年 4 月 東北大学 国際文化研究科 博士課程後期 3 年の課程 進学 平成 17 年 2 月 東北大学との協定大学間交換留学制度によりシドニー大学 (University of Sydney)留学（平成 17 年 11 月まで） 平成 18 年 3 月 東北大学 国際文化研究科 博士課程後期 3 年の課程 修了（博士（国 際文化）取得）		
職 歴	平成 18 年 4 月 名古屋芸術大学美術学部 非常勤講師（平成 19 年 3 月まで） 同 名城大学理工学部 非常勤講師（平成 19 年 3 月まで） 同 中京大学システム工学部 非常勤講師（平成 19 年 3 月まで） 平成 19 年 4 月 名古屋芸術大学美術学部美術学科 講師（平成 25 年 3 月まで） 平成 25 年 4 月 名古屋芸術大学美術学部美術学科 准教授（平成 29 年 3 月まで） 平成 29 年 4 月 名古屋芸術大学 芸術学部芸術学科 准教授（現在に至る）		
専門分野	言語学（選択体系機能理論）、テキスト分析、小学校外国語教育		
研究課題	言語学（選択体系機能理論）の理論枠組みに基づき、テキストと画像における様々 な意味資源の選択とその効果を分析する。特に、絵本におけるテキスト（文）と画 像（絵）の組み合わせとそれが生み出す効果を研究して絵本制作授業「アートプロ ジェクト 2」に活かしたり、小学校外国語教育における絵本の活用法を研究して 「外国語活動」に用いるなど、授業での教育に応用できる研究を目指している。		

平成 21～30 年度の業績

[論文・プロシーディング]

- ・ 「Genre-Based Approach to Teaching Tense in English Classes: Tense in Art Book Commentaries.」 (単著) 『機能言語学研究』第 5 巻 pp47-68. 日本機能言語学会 (平成 21 年 6 月)
- ・ 「ジャンルと英語教育：美術書にみる文法資源選択の偏り」 (単著) 『Proceedings of JASFL』 Vol. 3: pp25-37. 日本機能言語学会 (平成 21 年 10 月) \* 『英語学論説資料』第 44 号 (論説資料保存会) に転載収録
- ・ 「専門的英語教育とジャンル理論 (後半)」 (単著) 『名古屋芸術大学研究紀要』第 31 巻 pp365-379. (平成 22 年 3 月)
- ・ 「節境界に関わる問題：動詞の文法化」 『Proceedings of JASFL』 Vol. 4: P79-92 日本機能言語学会 (平成 22 年 10 月)
- ・ 「機能文法における節境界の問題と認定基準の提案」 (共著) 『機能言語学研究』第 6 巻 pp17-58. 日本機能言語学会 (平成 23 年 4 月)
- ・ 「日本語の CIRCUMSTANCE System について」 『Proceedings of JASFL』 Vol. 5: pp11-23. 日本機能言語学会 (平成 23 年 10 月)
- ・ 「日本語のモダリティ：「主観的」表現と「客観的」表現」 (単著) 『名古屋芸術大学研究紀要』第 33 巻 pp285-301. (平成 24 年 3 月)
- ・ 「Nominalization in the Japanese and English Languages Vol. 1」 『名古屋芸術大学研究紀要』第 34 巻 pp249-267. (平成 25 年 3 月) 『英語学論説資料』第 47 号 (論説資料保存会) に転載収録
- ・ Classifying Natural Phenomena through Language: Lexicogrammatical Resources for Constructing Taxonomies in Japanese Biology Textbooks. In Elizabeth A. Thomson and William S. Armour (eds.) *Systemic Functional Perspectives of Japanese: Descriptions and Applications. Sheffield: Equinox.*(平成 25 年 5 月)
- ・ 「日本語のコト、ノの扱い：名詞群の Head か助動詞化か」 『機能言語学研究』第 7 巻 P1-21 ) (単著) 日本機能言語学会 (平成 25 年 5 月)
- ・ 「日本語の心理過程：「見る」と「見える」」 『Proceedings of JASFL』 Vol. 7: pp71-84. (単著) 日本機能言語学会 (平成 25 年 10 月)
- ・ Nominalization in the Japanese and English Languages Vol. 2 (単著) 『名古屋芸術大学研究紀要』第 35 巻 pp277-295. (平成 26 年 3 月)
- ・ 「「外国語活動」と他教科の教材共有の可能性——国語教材の英語原書を用いた活動——」 (単著) 『名古屋芸術大学教職センター紀要』第 1 号 pp101-120. (平成 26 年 3 月)
- ・ 「絵本の文と絵：bimodal text における意味の相補性」 『Proceedings of JASFL』 Vol. 8: pp1-14. (単著) 日本機能言語学会 (平成 26 年 10 月)
- ・ 「小学校「外国語活動」での絵本活用の留意点：Hi, friends! を例に」 (単著) 『名古屋芸術大学研究紀要』第 36 巻 pp171-190.(平成 27 年 3 月)

教育研究業績

- ・ 「小学校「外国語活動」での絵本利用——Krashen のナチュラル・アプローチからの検討——」(単著)『名古屋芸術大学教職センター紀要』第2号 pp67-85.(平成27年3月)
- ・ 「絵本の文と絵の関係性システム」『機能言語学研究』第8巻 pp115-140.(単著)日本機能言語学会(平成27年6月)
- ・ 「絵本の文と絵の関係性システム」『機能言語学研究』第8巻 pp115-140.(単著)日本機能言語学会(平成27年6月)
- ・ 「絵本の絵と文：表現の得手不得手と協力関係」『Proceedings of JASFL』Vol. 9: pp1-14.(単著)日本機能言語学会(平成27年10月)
- ・ 「「外国語活動」における絵本の利用と語彙文法」(単著)『名古屋芸術大学教職センター紀要』第3号 pp7-23.(平成28年1月)
- ・ 「絵で表せる意味、文で表せる意味——絵本の絵を言語化する」(単著)『名古屋芸術大学研究紀要』第37巻 pp263-278.(平成28年3月)
- ・ 「絵で表せる意味、文で表せる意味：絵本の文を絵にする」(単著)『Proceedings of JASFL』 Vol. 10: pp1-13. 日本機能言語学会(平成28年10月)
- ・ 「「外国語活動」と絵本：言語理解における絵の役割」(単著)『名古屋芸術大学教職センター紀要』第5号 pp43-54.(平成29年3月)
- ・ 「英語授業での絵本の利用——語彙文法理解への絵の役割——」(単著)『名古屋芸術大学研究紀要』第38巻 pp233-248.(平成29年3月)
- ・ 「絵本の文と絵の補完関係」『機能言語学研究』第9巻 pp73-95.(単著)日本機能言語学会(平成29年7月)
- ・ 「絵本の中の「いたずら」：SFLの枠組みで効果を語る」(単著)『Proceedings of JASFL』 Vol. 11: pp17-27. 日本機能言語学会(平成29年10月)
- ・ 「小学校「外国語活動」と「外国語」：共通教材としての絵本」(単著)『名古屋芸術大学教職センター紀要』第7号 pp39-52.(平成30年3月)
- ・ 「絵本の絵を分析する——マルチモーダル・リテラシー教材開発のための枠組み紹介と検証」(単著)『名古屋芸術大学研究紀要』第39巻 pp229-245.(平成30年3月)
- ・ 「絵の中の結束性：Painter, et al.のシステム拡充」(単著)『Proceedings of JASFL』 Vol. 12: pp61-70. 日本機能言語学会(平成30年10月)
- ・ 「英語の読み書きを教えるための絵本活用の妥当性——フォニックスの観点から——」(単著)『名古屋芸術大学教職センター紀要』第8号 pp119-133.(平成31年3月)
- ・ 「英語教材としての絵本と結束性——小学校「外国語活動」教材 Let's Try!の挿絵の分析——」(単著)『名古屋芸術大学研究紀要』第40巻 pp233-246.(平成31年3月)

#### [学会発表]

- ・ 日本機能言語学会 (JASFL) 第17回秋期大会 (同志社大学 (京田辺キャンパス)) 「節境界に関わる問題：動詞の文法化」(平成21年10月11日)

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本機能言語学会 (JASFL) 第 18 回秋期大会 (新潟大学 (五十嵐キャンパス)) 「日本語の CIRCUMSTANCE System について」(平成 22 年 10 月 9 日)</li> <li>・ 日本機能言語学会 (JASFL) 第 19 回秋期大会 (上智大学 (四谷キャンパス)) 「日本語のモダリティ：階層下降か文法的比喩か」(平成 23 年 10 月 8 日)</li> <li>・ 日本機能言語学会 (JASFL) 第 20 回秋期大会 (愛知学院大学 (日進キャンパス)) 「日本語の心理過程：『見る』と『見える』」(平成 24 年 10 月 7 日)</li> <li>・ 日本機能言語学会 (JASFL) 第 21 回秋期大会 (神奈川大学 (横浜キャンパス)) 「絵本の文と絵：bimodal text における意味の相補性」(平成 25 年 10 月 12 日)</li> <li>・ 日本機能言語学会 (JASFL) 第 22 回秋期大会 (龍谷大学 (大阪梅田キャンパス)) 「絵本の絵と文：表現の得手不得手と協力関係」(平成 26 年 10 月 11 日)</li> <li>・ 日本機能言語学会 (JASFL) 第 23 回秋期大会 (玉川大学)「絵で表せる意味、文で表せる意味：絵本の文を絵にする」(平成 27 年 10 月 10 日)</li> <li>・ 日本機能言語学会 (JASFL) 第 24 回秋期大会 (立命館大学 びわこ・くさつキャンパス)「絵本の中の「いたずら」：SFT の枠組みで効果を語る」(平成 28 年 10 月 8 日)</li> <li>・ 日本機能言語学会 (JASFL) 第 25 回秋期大会 (同志社大学、今出川キャンパス) 「絵本の中の結束性：Painter, et al.のシステム拡充」(平成 29 年 10 月 8 日)</li> <li>・ 名古屋芸術大学リベラルアーツ総合研究所「教養と芸術」第 1 回研究会「リベラルアーツ—視覚をめぐる諸相」(せんだいメディアテーク)「絵本と音」(平成 30 年 1 月 13 日)</li> <li>・ 日本機能言語学会 (JASFL) 第 26 回秋期大会 (日本体育大学、世田谷キャンパスにおいて)「絵本の中の視点：文と絵による具現と組み合わせ」(平成 30 年 10 月 6 日)</li> </ul> <p><b>【講演】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 星槎国際高等学校 (名古屋学習センター) での模擬授業 (対象：アニメ・アートゼミ)「探してみよう絵本の中の「いたずら」」(平成 29 年 2 月)</li> <li>・ 名古屋市大学連携シリーズ講座「研究最前線！大学の知を学ぶ」(イーブルなごやにおいて)「名古屋と絵本：絵本と名古屋弁」(平成 29 年 7 月)</li> <li>・ 豊田工業高校での模擬授業 (対象：電子工学科 19 名)「社会に必要な教養としての英語」(平成 30 年 6 月)</li> <li>・ 名古屋市大学連携シリーズ講座「研究最前線！大学の知を学ぶ」(イーブルなごやにおいて)「英語でアート：図工で学ぶ国際化社会の教養」(平成 30 年 8 月)</li> </ul>
<p>所属学会 団体等</p>	<p>日本機能言語学会 会員 (平成 12 年 4 月～現在に至る)</p>
<p>社会的活動</p>	<p>特記事項なし</p>

その他	特記事項なし
-----	--------